

(様式第4号)

上田市図書館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市図書館協議会
2 日時	令和4年6月29日(水) 午後6時25分から午後8時05分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ 2階 会議室
4 出席者	佐々木会長、松井副会長、池田委員、中村委員、大井委員、小林委員、小林委員
5 市側出席者	浅野上田図書館長、金田上田情報ライブラリー館長、高橋上田図書館係長、赤地上田図書館係長、和田上田情報ライブラリー次長、藤森丸子図書館次長、岩下真田図書館次長
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年7月12日

協議事項等

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ(佐々木会長) コロナ禍で図書館運営が大変な中、職員にはいろんな対応をしている。今日は、運営の問題や電子化について、いろんな意見を出していただき、有意義な会議にしたい。
- 3 自己紹介
異動した事務局職員の自己紹介
- 4 協議事項
 - (1) 令和3年度事業実績報告及び令和4年度事業計画について
 - ・資料に沿って事務局から概要を説明
 - ・以降、協議
 - (委員) 令和2年度は休館があり、図書館を利用する者としては非常に残念だった。その間、東御図書館へ借りに行ったりしていたが、その後は休館にならず、ありがたかった。今後、コロナがどうなるか分からないが、なるべく休館にならないようにお願いしたい。
 - (事務局) 令和3年度の事業実績でも自主事業が出来なかったと報告したが、感染警戒レベルが5以上になったら主催事業は中止にしよう決めていた。まん延防止等重点措置の期間は、貸出、返却、予約だけというサービスの制限をしたが、休館にはならず感染対策をしながら開館した。今年度に入り、国が室内におけるマスクの着用についての基準を示し、図書館など静かな場所ではマスクを外してもいいのではという話があったが、その後、長野県は、室内であってもマスクの着用を推奨するとされ、現在、市内の図書館ではこれまでどおりマスクの着用をお願いしている。
 - (委員) Web利用者登録の促進という話があったが、自分は小学校のクラブ活動の講師をボランティアでしていて、今年からWindows 搭載のパソコンではなくなり、Chrome OS になったので、子ども達にエコールの使い方の紹介をした。エコールのトップページから地域のことを調べようというテーマにし上田市のことを調べさせる方向にした。長野県市町村史誌目次情報データベースを使って、太郎山、千曲川、大星神社等を調べた。ネット検索だと余りにも情報が多すぎて、何を使ったらいいか分からなかったという話もあったが、図書館のHPの中にリンクが貼ってあるので、そこから入る調べ方もあるんだということも教えてもいいと思った。長野県地域資料アーカイブの見方も教えたら、絵なども出て来て反響がすごかった。子ども達は学校でタブレットを1人1台配布されているので、こういうものにも触れてもらいたいと思う。学校にも上田市誌や町誌があると聞いているので、調べてほしい。目次情報で調べると見たい情報が早く分かると教えたら、興味深く見てくれた。そういう使い方をしてもらえば良いと思う。
 - (事務局) デジタル化した資料(アーカイブ)は、上田市はマルチメディア情報センターで以前から進めていた。他の市町村は、そういうことをする予算も保存する場所もないので、上田市は恵まれている。上田図書館の資料もアーカイブされているし、インターネットを通じ

て見られる情報もある。GIGA スクール構想でタブレットを児童が持てるようになり、それを活用していく一つの材料というか、そういう検索方法もあるということを知ってもらうことは大事なことなので、学校教育課と話をして活用できるようにしたいと思う。

(委員) 以前、マルチメディア情報センターが作った資料をタブレットで見られるようにして、全部の図書館にタブレットが配られたと思ったが、それはどうなったか。せっかく作っても職員が見て終わってしまい、あまり利用者が見るようなことはなかった。上田市誌も目次だけではなくて全文を検索できるフロッピーが図書館毎に配られたはずなので、もう一度どんなものがあるのか調べてほしい。

(委員) 私は、図書館を利用しようということを言いたい。せっかくタブレットなので、タブレットで図書館にはこういう調べ方があるということを知りたい。なぜかと言うと google でキーワード検索するとどんな情報でもみんな手に入る。でも、図書館へ行って初めて手に入る情報もある。クラブ活動で、図書館の資料を使って調べたもので成果物を作ろうと、google ドキュメントを使って文章にできるように、その検索方法を教えた。あくまでも図書館を使ってということをやっている。子ども達は、上田市誌にこういうことが載っているということを知らないので、エコーのページを見て、自分の欲しい情報を見つけ、上田市誌の何巻を借りてくれば良いという話をした。真田も丸子も同じ。

(事務局) 私も承知していない部分もあるが、タブレットがどういうことで配られたのか分からないので、確認させていただく。どういう資料があるか、もう一度確認して活用できるものは使っていきたい。

(委員) Web予約の利用者は、何人位いるのか。

(事務局) エコー全体で、令和4年3月31日現在の登録者は、約4,800人になる。比率とすれば、まだまだ少ないと思っている。この取組をやらうとしたのは、利用者の利便性ということでわざわざ図書館に来なくても本の予約が出来るということと、コロナ禍でなかなか外に出られない状況の中で家から予約できれば外に出る回数も減るので、そういうことでこの取組を広めようとした。

(委員) Webを使って、社会科等の教科で検索して調べていくのは、新しいやり方で、図書館と協力してやっていくのは大変良いことだ。ただ、学校間で差があったり、指導する先生がWebに対してどのくらい理解しているかによってかなり差があるので、こんなような使い方が出来るというマニュアルまでとはいかなくても取り掛かりとして図書館へ来るといろんな資料を選べるということを含んでPRをしてもらいたい。子どもによっては、非常に早く理解して、先生より先にいろんなことを思いついて利用する子どももいる。そういう子ども達にも図書館に来るともうちょっと資料を集めることが出来るし、知ることも出来ると併せて宣伝することも考えてほしい。

(事務局) 子ども達に対して、調べたりこんなことが出来たりするということを学校を通じて伝えることも考えられるので検討させていただく。

(委員) Web登録の年齢制限はあるのか。

(事務局) 15歳からとしている。

(委員) 学校図書館とエコーで連携して、いろんな図書館の本を借りられるが、タブレットが学校から提供されたことにより、自分で調べることが出来るようになった。夏休みの課題の調べ物をする時に、前は図書館に行って図書館の資料をみて、インターネットのことが全てではないので出来るだけ図書館で紙の資料で調べた方がいいと司書が言っているのを聞いたことがある。コロナ禍で図書館でゆっくり資料を見て調べて、自分で繋げていくような学習が出来なかったが、今年の夏は、図書館の閲覧コーナーで勉強することは、上田地域の図書館ではそろそろ可能なのか。

(事務局) タブレットが配られて、お子さんがエコーの検索の仕方などで、自分で図書館の本を検索できるようになるとこんな本があるんだということが分かるようになった。図書館の検索機を自分で使うことが出来る子どももいれば、そういうことを知らない子どもがほとんどだと思う。先程の話でエコーにはこういう方法で検索できるということになれば、

夏休みの自由研究で調べたいことのキーワードを入れてこんな本があるということが分かり、図書館に行ってみようということになる。読書室も今は開放しているので、読書室で調べ物をすることも出来る。

(委員) それぞれの図書館で特色があるので、子ども達に地域の図書館を利用してもらえるように、これからもイベントを初めとして図書館って楽しいところだよとか、図書館に来るといろんなことが広がるということを知ってもらいたい。コロナが明けて動き出したときには是非、いろいろと活用できる図書館になってほしい。

(委員) 今後、新しい図書館を作る時のためにだが、今まで他の図書館を見学することがあり、今の問題に非常に接近した問題として、子ども達があることに問題意識を持った時に、こういうことを調べたいとなったら図書館の方で、あるコーナーに行くという関係の本がずらっと並んでいる図書館があった。そうすると次々と問題意識が深まっていく。本の並べ方まで変わっている図書館があって非常に参考になったことがあった。こういう風に問題を展開したり、高めていくことが出来るというようなものを図書館が狙う。例えば上田図書館に来るとこういう風に問題を深めることが出来るというようなことを、何も言わないのに来てくれる人達が気づいてくれると図書館の魅力がもの凄く深まる。今はスタートの段階だと思う。子ども達にもWebだけでなく図書館に来るともっと幅広く分かるし、大人にも類似した幅広さを図書館が狙っているのだと、言わなくても伝えることが出来る。こういうことがこれからは求められていると思う。分類番号で散らばっているのではなくて、同じような系統で集める。これから新しい上田図書館を作る前段階として、ひとつそんなことをやってみたらどうかと思う。

(事務局) 司書が尋ねられた時には、こんな本があるとか紹介できるが、今、分類別に本が並んでいる中で、そこまで出来ているかと言えば、まだまだというところかと思う。新しい図書館を作るにあたって、どういう工夫が出来るか、いろんな図書館を見たり、市民の意見を聞きながら作っていききたい。

(委員) 資料収集方針の明確化と情報共有の関係で、資料別、分類別で積極的に収集する、しないを各館で分けて、こういう種類の本はどの図書館に行けばあるとか、そういう分け方か。そういうのは昔、やり始めたことがあったが、やっぱり偏ってしまうので止めたような気がするが、今回のものは、1類・2類はこの図書館で積極的に集めるということか。

(事務局) 分類別というのは、そういうことになり、社会関係はこの図書館、地理・歴史関係はこの図書館という分け方になるが、地理・歴史の本を全てその図書館としてしまうと、他の図書館に地理・歴史の本が全くないという状況も良くない。各館に特徴があるのでその特徴に合わせて、まずはその図書館でその分類の本を収集し、他の館でも基本的な本は持っていて、もう少し細かい本は、中心となって収集する館にするとか、そんな決め方だ。最終的に、一番大きな上田図書館で全体を見て、足りないところを補完するという決め方になっている。

(委員) 調べ物をする時に分野が分かれているならその図書館に行ってみようということになってくるが、どういう形が一番いいのか、昔から試行錯誤しながらやって来た。入る本のキャパもそんなに大きくないので、新しい図書館が出来たらたくさん本が入ってくれば嬉しい。

(2) 市町村と県による協働電子図書館について

- ・資料に沿い、事務局から概要を説明
- ・以降、協議

(委員) 協働電子図書館導入に合わせて、図書館に専用のパソコンが新たに設置されるのか。

(事務局) 個人が持っているパソコン、タブレット、スマートフォンを使って、家で本が読めるというサービスなので、図書館の方でタブレット等を用意することは今のところ準備はしていない。

(委員) これは、次元が一段階上に行くという感じがする。例えば図書館で調べ物をする時に、持ち込んだパソコンを使って電子図書館の資料を見るということは出来ないのか。

(事務局) 図書館にパソコンを持ち込んで利用することは、紙の本やインターネットを使って調べ物をしたいという要望がある中で、市内の図書館では各図書館の環境によって違って来る。例えば上田図書館では、電源が取れないし、インターネットの環境が整っていないため電子書籍で調べ物が出来ない。一方、情報ライブラリーは電源の貸出やインターネットへの接続が出来るようになっているので、電子書籍を読むことができる。各図書館によって環境が整っているところと整っていないところがある。

(委員) 最初は宝くじの助成金がでるが、その後は決まっていけないということだが、万が一、予算が付かなければ1年間で終わってしまうという可能性もあるのか。

(事務局) 宝くじ助成金については、令和5年度は、令和4年度の事業の状況をみて関係の事務局で判断するという事なので、令和5年度の可能性はゼロではないということである。令和6年度以降は、宝くじ助成金が出ないと思われる。それ以降は、上田市であれば年間55万円の負担金を払うと電子図書館の継続が出来る。一番の問題は、令和5年度までに利用登録した人が、令和6年度は予算がないから利用できなくなるということだが、そういうふうにはならないと思う。その議論は県の会議でも出ていて、77市町村ある中で、小さな村でどうしようもなくなるのが無いとは言い切れないが、その場合は何らかの救済措置を考えるという話し合いがされている。原則として、翌年から全く使えなくなるということは避けたい。

(委員) 県としては、全市町村で始めるということを強調していると聞いた。足並みが揃わなくなって、小さい自治体でやっぱり払えなくなった時に助けられるのか心配だ。もう一つは、2年間または52回しか借りられないと決まっていて制限がある。メディア・ドゥだと和書で47,000点と言われていて、その中にすごく使いたいものがどの位あるのか、新しいものがどの位入っているのか、また、良いものがあれば皆で使えば52回なんてすぐに終わってしまい、また買わないといけなくなる。その辺の問題があって、継続的にやっていけるのか不安だ。

(事務局) 県は、全ての県民を対象として事業を行いたいという意向もあるが、図書館がない市町村もあり、そういう市町村の住民も図書館のサービスをネットを通じて利用していただきたいという思いもあり、全市町村ということになった。最初はこんなに早く全市町村が参加出来るとは思っていなかったが、宝くじ助成金の話があり進んできた。県民が等しく利用できるという理念がある。あと、コンテンツ・本については、これまで電子書籍が広がらなかった理由は、各自治体の財政の問題であるとかいくつかあるが、一番は電子書籍になっている本がまだまだ少ないということが大きな問題だと思う。買い切り型という買い方と制限型という買い方があるが、制限型は人気の書籍は、52回読むと買った権利が失われてしまうので、そういう本は、副本を購入するといった対応をしていく。実際に始まった時点で、どういう状況になるのかを見ながら、対応を検討していきたい。コンテンツが本当に魅力あるものなのかということが進める上で大きな問題だと思う。始まってもし読みたい本が無ければ利用されない。提供する事業者が、毎年、電子書籍を増やしているが、限られた予算の中で、利用してもらえるような本を選書していくことが大事だと思う。

(委員) 上田の図書館職員が、選書に参加できるのか。

(事務局) 全市町村に選書の権利がある。スタート時点の選書にも上田市は参加している。各市町村で選書した本を選定チームが今、選定している状況だ。上田市で選んだ本が全て採用されるとは思わないが、選書権は全市町村にある。

(委員) 自分は、著作権が切れている青空文庫を良く読む。あと、有料だが「honto」でインターネットから購入して読んでいます。若い世代は、スマホを皆持っているので、とてもいい取組だと思う。まず、中を覗いてみて、気に入れば利用すると思う。「honto」や「Kindle」は物凄い量の本が入っている。子どもたちも、タブレットやスマホを持っているので利用できる。是非、うまく行ってほしい。

(委員) 利用者のID登録は、自分で登録をしないと利用できないのか。図書館だったら、誰もがいつでも好きな時に行って、本を探して読めるが、電子図書館は登録しないといけない

のか。また、登録は図書館でやってくれないのか。

(事務局) ID、パスワードがないと電子図書館に入れないので、予め図書館の窓口で登録してもらう必要がある。利用できる人は、長野県内に住んでいるか、県外から通勤・通学している人である。その方が利用登録を図書館の窓口でもらうことにより、初めて電子図書館を利用できるようになる。図書カードを作るイメージになる。登録をしておかないと、例えば他県の人に来て、電子書籍を借りられてしまうと困るので、利用できる人の要件があって、要件に合致する人にIDとパスワードを交付して利用してもらう仕組みになっている。

(委員) 使ってみて、これは面白いと思った方はいるか。

(委員) 青空文庫は古い本だが、新刊本は、紙の本より値段が少し安い。それをダウンロードして読むが、自分の慣れもあるとは思いますが良いと思う。結構使っている。若い人や子供たちは、図書館に来なくてもいいので、かえっていいと思う。図書館で使い方をよく教えてあげないといけないと思う。まずは入り方を教えてほしい。

(委員) IDの登録は、市町村と県立でどちらでもいいのか。これは個人情報を登録するので、全県に自分の情報が共有させることになるのか。

(事務局) 上田市では、分室も含めて6か所で登録が出来る。要件は、上田市内に居住している人等で、かつエコールのカードを持っている人になる。エコールの情報は、エコール管内だけで持つ情報で変わりなく、この情報を県や他の市町村に出すことはなく、エコール管内だけで情報を管理することになっている。

(委員) 実際に電子書籍を読んでいて、目は疲れませんか。

(委員) それは、しょうがないことだ。自分は、基本はパソコンで読んでいる。スマホだと字が小さくて読みづらい。タブレットなら普通の大きさで読める。そんなに心配したことはないと思う。1時間見たら、外の景色や遠くを見るようにしている。一番利用しているのが、パソコンの問題集を作るときで、図書館に資料が無い時は、インターネットから電子図書を買っている。紙の本がいくつもあっても困るので、電子図書を見て問題を作っている。使い方は、いくらでもあると思う。慣れればいいと思う。

(委員) パソコンに慣れている人は、抵抗なく使えると思う。自分はある雑誌を取っていて、契約すると1年間は電子でも見られるという雑誌がある。自分の年齢になると、紙の資料がないと不安になる。だから両方取って使っている。電子では、図や地図が鮮明に見ることが出来、良いところもある。ただ、一瞬でなくなってしまい、保存したものを長年使ってきたので、不安なところもある。一生涯、本を買い続けると大変な量になるので、電子になってパソコンの中に全部入っていて、いつでも引き出せばいいと考えれば、それでもいいわけだ。そういうことを考えれば、新しい時代の一つのやり方だと思う。

(事務局) おっしゃる通りだと思っている。じっくり紙で読みたいという人もいるし、一方でちょっと調べ物をしたい時には、電子書籍の方が便利な時もある。子どもたちは、コミックなどを読んだりしているが、そういう子どもたちは抵抗なく、どんな電子書籍でも読めるようになるかもしれない。自分に合った形のものを読んでもらうことも一つの選択肢だと思う。

5 その他

(委員) 本日、欠席委員から3つの意見をいただいているので、それについて審議をしたい。

(委員) 電子図書館構想はぜひ進めてもらいたい。くわえて、青空文庫以外の著作権の切れた資料や、他の地域では閲覧の難しい地域・郷土資料などのデジタルアーカイブス化およびその公開も併せて実施してもらいたい。

(事務局) 協働電子図書館では、アーカイブ資料も登録できるようになっている。まだ、直ぐにはならないが、そんな活用の仕方も出来る。

(委員) 材木町の図書館の早急な新築を望む。県立長野図書館のコンセプト「情報と情報、情報と人、人と人をつなぐ場」としての図書館になることを切望する。また、小諸市立図書館の施設設計のように利用者の多様なニーズと、利用者への配慮ある設計が必要だ。

(事務局) 小諸市立図書館の例を出しているが、私も小諸市立図書館へ行ったことがあるが、綺麗で素晴らしい図書館だ。ワークショップ等を開いて、市民の意見を聞きながら進めてきたと聞いている。上田図書館を改築する時にも、そういったことは必要だと感じている。

(委員) 学校図書館への支援を手厚くしてもらいたい。教育委員会の各課と連携を取りながら、学校図書館支援センターの設置、司書教諭や学校司書への業務支援、資料の団体貸し出しの強化などを早急に検討してもらいたい。これらの支援は、子どもたちが大人になり、学校教育から社会教育へ移行するときに、「人生を豊かにする一つの手段として図書館を利用」するきっかけになる。成長期の子どもたちへ図書館のミッションである「人格の完成」(教育基本法の目的)に寄与するため、積極的な学校図書館支援は必須である。

(事務局) 学校図書館の支援の充実は、所管する学校教育課の考え方にもよるが、これまでも団体貸出しや研修等、公立図書館で出来る支援はしてきた。さらに何か出来るか、今後の検討課題としたい。

(委員) 上田図書館の新築について、以前からこの協議会でも話し合いがされているが、五中の建設が終わると次は図書館というような話を聞いたが、そういう理解でいいか。

(事務局) そのようなことにはなっていない。市の大きな建設事業は、目白押しで次から次にあるが、実施計画で定めて、具体的に実施していくのが手法である。実施計画に図書館の建設は搭載されているが、具体的に何年からということまでは書かれていない。ただ、昨年度に図書館の個別施設計画を策定した中で、改築の目途として築60年ということで認知されている。それに向けて建設していくという計画は作られている。

(委員) 昨年6月の市議会の一般質問でその質問があって、今、話があったように築60年で建替えるという方向で打ち出されている。そうなると、一つの目途としては令和12年頃になるが、そうすると残りはそんなにない。どういうふうに建て替えをするか、大きな流れは以前に作られている。その後、電子化の大きな波が来ている。県内にも新しい図書館がいくつかできて、我々も見せてもらったが、これは素晴らしいという図書館があるので、早めに着手してほしい。そして、市民の声をどの様に吸い上げて反映するかが協議会の大きなテーマだと思う。是非、良い図書館を造ってほしい。かつては、上田図書館が全国のトップレベルでいろんな資料が揃っていた。運営の仕方も、現在も含めて評価されている。良いところを受け継いで、伝統として残してほしい。そういうことも基本の計画に入れてほしい。それには時間もかかるので、そろそろスタートする頃だと思う。

(事務局) 図書館協議会では、上田市図書館施設整備計画について取り上げてご意見をいただいているが、まだ具体的なロードマップをお示しする状況にない。間に合わなくなるないように、スケジュールどおりに運ぶように進めていきたい。